

高校コミュニケーション英語教科書課末タスクの分析 — 本文テキストをもとにした技能統合を促す設問に焦点を当てて —

深澤 清治・五井 千穂*・吉田来依可*・久万 瑞帆*・有馬 史織*・江 婉*

(2015年12月7日受理)

An Analysis of Post-text Tasks in High School English Communication Textbooks: Focusing on Reading-based Questions Enhancing Skill Integration

Seiji FUKAZAWA, Chiho GOI, Kieka YOSHIDA, Mizuho KUMA, Shiori ARIMA and KOU EN

Abstract. The goal of this short article is to analyze post-text tasks in Japanese senior high school English textbooks focusing on activities following the main texts to promote skill integration. Compared with the heightened interests in a series of textbook studies focusing on main texts, very little attention has been paid to the roles of post-text tasks in English textbooks. For this study, three senior high school English textbooks authorized by the Japanese Government were selected and their post-reading tasks were analyzed from the viewpoints of skill integration. As a result, it was found that relatively few tasks were available for skill integration in the analyzed textbooks and one advanced level textbook introduced some activities enhancing output of the learners' own ideas and opinions.

1. はじめに

本研究の目的は、英語教科書使用において副次的に捉えられることの多い各課末課題に焦点を当て、リーディングを中心とした他技能との統合的な活動がどの程度、取り入れられているかを明らかにすることである。

日本の英語教育において、平成25年度実施の学習指導要領で、4技能を有機的に関連づけた授業を行うこととされている。たとえば、新設科目「コミュニケーション英語」の「内容の取扱い」では、「聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする」とある。4技能をそれぞれ別々に扱うのではなく、各技能を関連させ、総合的かつ統合的な指導を行うことが求められていると言えよう。同様に、コミュニケーション英語の目標として掲げられた、「情報

や考えを理解したり伝えたりする力」を養うためには、教科書の内容理解を深め、それらについての事実・情報や自分の意見を他者に対して表現することが必要になる。そのような言語活動に、教科書はどのように寄与しうるのであろうか。そこで本稿は、近年の英語教育で重視されている複数技能の統合活動を導入するために、教科書課末がどの程度の役割を果たしているのかを探ることをねらう。

2. 教科書研究における課末課題研究の現状

(1) 教科書研究の主な視点

教科書を対象として、教科書の形式・内容の分類、分析、評価を行うこと（教師による教材研究も含む）を目的とした一連の研究を「教科書研究」と呼ぶとすると、その研究対象は次の4つの大きな分類ができるであろう。

- ① 題材研究 = 本文のトピック、ジャンルの分類・分析

*広島大学大学院教育学研究科博士課程前期大学院生

- ②言語材料研究＝本文に表れた発音，単語，文法，機能などの分類・分析
- ③タスク研究＝本文に関連した技能別あるいは技能統合タスクの分類・分析
- ④その他＝本文に関連した写真，イラスト，イメージなどの分類・分析

このうち，教科書研究のほとんどは，①題材研究と②言語材料研究であろう。題材研究においては，教科書題材に対する中・高・大学生学習者の興味・関心をアンケートにより把握したり，異文化理解の観点から，題材中に出現した国・地域，話者の文化圏・国籍などの出現頻度を調査したりする研究が数多く発表されている。同じく，言語材料研究も，教科書本文中の言語材料（単語や文法事項など）の初出順序，使用頻度やコロケーションなどをみるものが大半を占める。とみに最近のコーパス研究などにおいては，教科書本文で使用される単語の頻度や組み合わせの観点からいわゆる教科書英語について興味深い結果が報告されている。さらに，英語母語話者の視点から見た，日本の教科書英語に対して間違いを指摘する研究も多い。

これに対して，教科書中，あるいは課末の練習・発展課題についてあまり多くの研究は行われていない。その関心の薄さは，教科書本文の扱いに比べて，教科書課末は指導上やや表面的な扱いをされていることに起因するとも考えられる。教科書本文は，新しい単語や文法事項など言語材料の導入，本文の意味内容の入力を中心目的としているのに対し，教科書課末は，本文を復習，練習，発展させる役割を持つ。特に近年の英語教育においては，本文の言語材料や意味内容の理解にとどまらず，それらをもとに，事実や自らの意見をいかにアウトプットするかが求められている（伊東，2008）。すなわち，「読むこと」を「話すこと」，「書くこと」につなげるように，複数技能を統合的に用いることや，教科書本文の内容や言語知識と自らの意見や考えを統合することが必要となっている。学習指導要領の改訂により，高等学校においては，英語リーディング，英語ライティングのような個別の技能を指導するだけでなく，コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，のように4技能をバランス良く入れることが期待されている。その中では，個別のスキルが見にくくなってはいるが，依然，リーディング技能に重点が置かれてお

り，教科書本文に書かれた内容を読み取って，それについて自分の考えなどを話したり，書いたりすることが求められている。外国語によるコミュニケーション能力を伸ばすために，教科書課末の活動がどのような役割を持つのか，また日本の教科書に盛り込まれた課題はどのような傾向と特徴があるのかを明らかにした上で，これからの教科書課末題材のあり方，また現職教員にとってもどのような活動を改めて加えていく必要があるのか，十分に議論を重ねていく必要があるであろう。

上記の教科書研究の対象のうち，本研究は③のタスク研究を目的としたものである。教科書タスクは，本文前（Pre-text），本文中（while-reading），セクション末（section-final），課末（lesson-final）などに置かれているが，本稿では，特に教科書各課終了後に，本文で提示された新出言語材料や，内容の理解確認・定着，さらに理解したものをアウトプットにつなげる活動の提示状況を調査する。

(2) 英語教科書タスク研究の概観

1) リーディング指導において

高等学校での英語リーディング指導では，英文テキストの表面的な意味理解に終わらず，テキスト主題や筆者の意図を深く理解させたり，テキスト内容に対する生徒の考えや意見を引き出ししたりする指導が求められている。教科書タスクは本文の意味内容の表面的理解にとどまらず，さらに深い理解，あるいは表現活動へと発展させる役割を持つ。英語リーディング指導の現状として，依然として和訳や文構造の解説に多くの時間が割かれていることを考えると，生徒の思考力・判断力・表現力の育成をめざす言語指導において，課末課題の役割を再考することが必要であろう。

高等学校の検定リーディング教科書における読解発問を分析した深澤（2008，2010）は，教科書のセクション毎の読解発問のタイプの中で事実発問が大部分を占め，推論発問や評価発問のような発問は十分に用意されていないと指摘している。したがって，本文の内容について事実・意見を発表する機会を創り出すことは教師の授業力に大きく依存していると言えるであろう。さらに，バランスの取れた発問タイプを活用することにより，より効果的な読解指導が可能になるであろう。

2) ライティング指導において

高等学校英語教科書のライティングタスクの分析研究として、Kobayakawa (2011) は、旧学習指導要領により検定・採択された英語 I・II, ライティング教科書 5 種類, 合計 15 冊における「書くこと」の課題を制限作文, 誘導作文, 和文英訳, 自由英作文の 4 つに大別し, さらに以下の 14 種類の課題に分類している。量的比較分析を行った結果, 英語 I・II 教科書では制限作文や日本文を見て一文埋める問題, ライティング教科書では和文英訳や制限作文の課題が多く, 全体的には, 誘導作文と自由英作文の課題の占める割合は少なかったとしている。

高等学校英語教科書に表れたライティングタスクの例

(1) Controlled writing

- (a) dictation
- (b) conversion
- (c) sentence combining
- (d) fill-in-the-blank without translation
- (e) question-answer
- (f) sentence ordering
- (g) addition
- (h) summary writing

(2) Guided writing

- (i) fill-in-the-blank without translation
- (j) question-answer
- (k) addition

(3) Translation

- (l) direct-translation-of-a-whole-sentence
- (m) fill-in-the-blank with translation

(4) Free writing

- (n) free composition

3) 技能統合的な活動の可能性, 例

言語の技能は 4 分野に分かれることが一般的であるが, 私たちの日常の言語活動においては, 電話をしながらメモを取るなど, ほとんどの場合, 4 技能の中の複数技能が用いられている。とりわけ, 対人間のコミュニケーションにおいて言語を使用する際には, 話の流れに応じて, 刻々と使用技能が入れ替わっていくのが一般的であり, さらにそれをすることによって, 各技能の能力も高まっていくと考えられる。リーディングを例に挙げれば, 読んだ内容について話したり, 書いたり

することによって, さらに読む技能が高まることや期待される。特に高等学校においては, 言語材料も中学校と比べて高度化しており, 少しの工夫によって訳読に終わらず, 解釈した内容を話す, 書くことを通して他技能につなげる活動を取り入れることができる。

岡ら (2004) は, 高等学校英語授業での技能統合についてつぎのような 6 つの組み合わせを例示している (一部省略)。

- ①リスニングとスピーキングの統合の例
- ②リスニングとリーディングの統合の例
- ③リスニングとライティングの統合の例
- ④リーディングとスピーキングの統合の例
 - a. 読んで調べたものを発表する
 - b. 広告を読んで, 電話で商品を注文する
 - c. テキストの本文を読んだ後, 内容に関する Q&A をする
 - d. 各レッスン終了後内容についてディスカッションする
- ⑤ライティングとスピーキングの統合の例
- ⑥リーディングとライティングの統合の例
 - a. 受け取った手紙(メール)を読み, 返事を書く
 - b. 書いたもの(物語, 意見, 感想等)を交換して読みあう
 - c. 読んだものの続きを書く
 - d. 広告を読み, ファックスで注文する
 - e. 読んだものの感想を書く

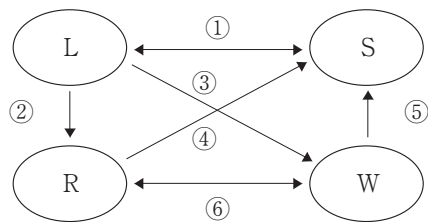


図 1 4 技能による統合活動の組み合わせモデル (岡ら 2004, p. 142)

以下, 次節においては, 高等学校コミュニケーション英語教科書の課末活動を分析する。

3. 教科書課末のポスト・リーディング活動の分析—高校英語コミュニケーションの教科書

(1) 分析対象教材

高等学校検定教科書コミュニケーション英語の

I～Ⅲのシリーズ3種類をランダムに抽出した。その際、難易度、出版社が異なり、採択数が上位10位以内であるものを対象とした。使用教科書は以下のとおりである。以下の記述では、順不同でTextbook A, B, Cと表記する。

- ・All Aboard! Communication English I, II, III (東京書籍)
- ・CROWN English Communication I, II, III (三省堂)
- ・Vivid English Communication I, II, III (第一学習社)

(2) 分析対象タスク

ポストリーディング活動では、その課のまとめが主な目的となる。教科書においては、課末のタスクはポストリーディング活動に該当するものとみなすことができる。本文の内容や扱われた言語材料についての設問など、本文を再度取り上げるタイプのタスクのほか、本文に関連した新たな文章等を取り上げる発展的なタスクが設けられる場合もある。今回の分析では、正課(Lesson Xの形式で設けられている課)の課末において、前者に該当する「本文との直接の技能統合タスク」と、後者に該当する「本文に関連した内容を扱う技能統合タスク」を抽出した。なお、指示や解答の言語には日本語の場合も英語の場合もあるが、解答における活用技能としてのスピーキング、ライティングの技能は英語で表現する場合のみを対象とした。また、いわゆる文法・語法に関する設問は、本文で読んだ英語を用いる点で広義にはリーディングとの技能統合ともいえるかもしれないが、一般的に課末の練習問題は本文に基づかずとも解答可能な機械的な設問が多いため、技能統合型タスクの対象からは除外した。

(3) タスクの分類

1) 本文との直接の技能統合型タスク

このタイプに該当するのは、岡ら(2004)が例示している技能統合の活動である。そのうち、教科書を使用したポストリーディング活動に応用できる、リーディングと他技能との統合例は次のものである。④はリーディングとスピーキングの統合、⑥はリーディングとライティングの統合である。

- ④ c. テキストの本文を読んだ後、内容に関するQ&Aをする
- ④ d. 各レッスン終了後内容についてディスカッ

ションする

- ⑥ c. 読んだものの続きを書く
- ⑥ e. 読んだものの感想を書く

これらは、本文を「読み」、その内容を用いて「話し」たり「書い」たりするタスクである。今回分析対象の教科書の課末には、上記項目に該当するタスクは見られなかった。本文の内容に関する設問(Q&A)が設定されている場合はあるが、答えは多肢選択によるもので、スピーキングとの統合とみなすことはできないと判断した。一方、上記のタスクに相当するとみなすことができるものとして、「本文のサマリーを書く」タスクが設けられている教科書もあった。しかし、それもほとんどの課では空所補充によって英文を完成させる形式になっており、サマリーを「書く」と判断できるタスク(キーワードのみ与えられているもの)はⅢ後半の数課にとどまっている。したがって、このタイプのタスクは非常に少ない。

2) 本文の内容に関連した内容を扱う技能統合型タスク

このタイプのタスクは、ポストリーディング活動におけるより発展的なタスクである。本文を直接用いるのではなく、本文で読んだ内容に関連した別の題材や設問が設けられており、いずれの教科書においてもこのタイプのタスクの分量が多くなっている。このタスクで活用される技能は、本文でのリーディングを基盤としてその上に統合される技能として捉えることができるため、今回の分析ではこのタイプを対象に含めることにした。

(4) 分類カテゴリー

分類は、リーディングと統合される技能を規準に帰納的におこない、次のa～mの20項目(c, h, lは下位項目を使用)を設定した。aはリスニング、b～gは主にライティング、h～kは主にスピーキングが統合される技能である。l, mに分類されるものは、設問に答える形式で答え方に指定がないものである。ライティングまたはスピーキング(あるいはその両方)が統合される技能となるであろう。また、上記1)のタスクに該当するのはb, 他は全て2)に該当するタスクである。

- a. 本文のテーマに関係して設定された内容の英

- 文を聞いて、設問に解答する
- b. 本文のサマリーを書く
 - c. 本文のテーマに関して設定された内容についての説明文や紹介文を書く
 - c-1 自分の知識や体験を書く
 - c-2 インターネットや書籍等で調べた内容を書く
 - c-3 提示されているグラフや図からの情報を書く
 - c-4 人への質問やインタビューから得た情報を書く
 - d. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を書く
 - e. 本文のテーマに関して設定された内容で手紙文を書く
 - f. 本文のテーマに関して設定された内容で英文を創造する
 - g. 本文のテーマに関して設定された内容で、パンフレットやポスター等を作成する
 - h. 本文のテーマに関して設定された内容について、口頭で説明したり紹介したりする
 - h-1 自分の知識や体験を話す
 - h-2 インターネットや書籍等で調べた内容を話す
 - h-3 提示されているグラフや図からの情報を話す
 - h-4 人への質問やインタビューから得た情報を話す
 - i. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を話す
 - j. 本文のテーマに関して設定された話題で対話をする
 - k. 本文のテーマに関して設定された内容について、知識や情報、意見を交換する
 - l. 本文のテーマに関して設定された内容について説明したり紹介したりする
 - l-1 自分の知識や体験を述べる
 - l-2 インターネットや書籍等で調べた内容を述べる
 - m. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を述べる
- (5) 各教科書におけるタスクの扱い
- 教科書ごとにどのタスクが含まれているかを整理したものが図2である。各項目に該当するタスクを含んでいるかどうかのみの記録で、タスクの数や量は加味していない。ただし、3種類の教科書シリーズとも課末ページのスタイルが統一されていることから、それぞれに典型的な、頻度の高いタスクがある(図2において網掛けが頻度の高いタスク)。いずれの教科書シリーズにおいても、ⅠとⅡはほぼ同じスタイルで、Ⅲは異なったスタイルになっている。
- 各教科書の該当タスクの傾向は下表1のとおりである。

表1 各教科書の課末タスクの特徴

	Ⅰ, Ⅱ	Ⅲ	全体
Textbook A	本文のテーマに関して設定された内容のリスニング問題と、本文のテーマに関して設定された話題で話すタスクが一般型。リスニングは正誤問題。話すタスクは日常会話表現の練習が意図され、言語の機能にも注目させている。	本文のテーマに関して設定された話題で発表するタスクが一般型。Ⅰ, Ⅱがパターンに当てはめる形式であるのに対し、Ⅲでは設問に答えさせながら、まとまった英語で表現する方向へ導く形式になっている。	教科書本文の難易度は易しめ。「話す」タスクが中心。「書く」ことはほとんど求めている。文章表現の例やパターン、語句が提示されるなど、教科書内にヒントが多い。
Textbook B	本文のテーマに関して設定された内容について、説明したり紹介したりするタスクが一般型。発表したい内容を表に整理し、原稿を書き、発表するというプロセスが設定されている。	本文のテーマに関して設定された内容のリスニング問題と、自分の経験や考えなどを答えさせる設問という形式がとられている。後者の設問の解答は、書くことでも話すことでも可能である。	教科書本文の難易度は中程度。Ⅰ, Ⅱでは「書いて」、「話す」タスクで、Ⅲで「聞く」タスクが加わる。発表のタスクにおいては、情報を整理して表現するもの中心であり、自分の考えや意見を述べるものはほとんどない。
Textbook C	本文のテーマに関して設定された内容のリスニング問題、それを踏まえて説明文や意見文を書き、それを発表するという流れがメインタスクである。さらに補足タスクとして、自分の体験や考え、意見を述べさせる設問が設けられている。	本文のテーマに関して設定された内容で、自分の体験や考え、意見を述べさせる設問が設けられている。提示された意見文を参照して意見を述べる形式が一般型であるが、批判的思考を促すような提示がなされている。Ⅰ, Ⅱに比べ、意見を求めるタスクが多くなっている。	教科書本文の難易度は難しめ。Ⅰ, Ⅱで、「聞いて、書いて、話す」というプロセスが全課で適用されている。Ⅲではスキルの指示はないが、それまでに学習したストラテジーを総合的に活用して取り組ませるレベルのタスクになっている。ディスカッションやダイベートにつなげることも可能である。

各教科書の傾向を活用するスキル、内容における「事実」、「意見」、学習者に対する負荷の観点から略述すると、次のようにまとめられる。

1) スキルの観点から

		L	R	S	W
Textbook A	I	✓		✓	
	II	✓		✓	
	III			✓	
Textbook B	I			✓	✓
	II			✓	✓
	III	✓		✓ or ✓	
Textbook C	I	✓		✓	✓
	II	✓		✓	✓
	III			✓	✓

2) タスク内容における「事実」と「意見」の観点から

	事実	意見	
Textbook A	✓		主に、知識や事実の説明や紹介
Textbook B	✓		主に、知識や事実の説明や紹介
Textbook C	✓	✓	知識や事実の説明や紹介、及び自分の考えや意見の主張

3) 学習者に対する負荷の観点から

Textbook A:

この教科書を使用する生徒の英語力を考慮すると仕方ないのであるが、タスク内容が表面的である。I、II のリスニングは、読まれる英文が写真と一致するかどうかを答える問題、Communication として日常会話の練習が目的である「話す」タスクは、与えられたパターンの空所を補ってペアで対話をしたり、説明文を完成させてグループで言ったりする形式である。話す英文は短い。Tool Box として Useful Expressions が与えられているため、パターンプラクティスに陥らないように導く必要がある。

Textbook B:

生徒の知識や関心に合わせて取り組めるように

設定されたタスクであるが、生徒が取り上げたい内容と、生徒の英語運用力が釣り合うかどうかは疑わしいテーマもある。また、教室外で情報収集をする（インターネットで調べるなど）必要があるものもあり、その場合は、英語の授業内でこなすのが（時間的に）難しいことも生じうる。

教科書本文で、社会や人生について考えさせる内容のものがあるにもかかわらず、課末が、考えさせ意見をまとめさせるような作りになっていない（まとまりのある文を書いたり話したりするステップは示されていない）。この教科書を使う生徒の英語力に合った scaffolding が必要であるように思われる。

Textbook C:

活用される技能のバランスが最もとれており、タスクに設定されている内容（テーマ）も充実している。他の2冊と比べて、考えや意見を述べさせる設問が多い。もっとも難易度の高い英語教科書といえるこの教科書を征服できるということは、相当の英語力がついていると判断してよいであろう。だが、この教科書を使っている生徒のうち、果たしてどれくらいの生徒がこのタスクをこなすことができるのか。本文の理解だけでもかなりの負担である。設定されているすべての設問・タスクを取り上げるというよりは、指導者が Pre-reading, While-reading の指導過程も加味して、選択・変更して扱う必要があるように思われる。

4. おわりに

本研究においては、高等学校コミュニケーション英語教科書のうち、初級、中級、上級各一種類の合計3冊を対象に、各課末課題に焦点を当て、リーディングを中心とした他技能との統合的な活動がどの程度、その中に取り入れられているかを明らかにしようとした。学習指導要領に盛り込まれた「聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする」といった4技能を結び付けた言語活動を通してコミュニケーション能力を育成するように工夫」することの要請を受けて、3種類の教科書とも技能統合の試みを見いだすことができた。

しかしながら、3つの教科書で扱われたタスクには大きな違いが見られた。すなわち、初級、中

コミュニケーション英語教科書の課末における ポストリーディング活動としての技能統合型タスクの分類

	統合される技能	Textbook A			Textbook B			Textbook C		
		I	II	III	I	II	III	I	II	III
a. 本文のテーマに関して設定された内容の英文を聞いて、設問に解答する	L	✓	✓				✓	✓	✓	
b. 本文のサマリーを書く	W									✓
c. 本文のテーマに関して設定された内容についての説明文や紹介文を書く		/	/	/	/	/	/	/	/	/
c-1 自分の知識や体験を書く	W			✓	✓	✓		✓	✓	
c-2 インターネットや書籍等で調べた内容を書く	(R+)W			✓	✓				✓	
c-3 提示されているグラフや図からの情報を書く	W							✓		
c-4 人への質問やインタビューから得た情報を書く	S+L+W					✓				
d. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を書く	W		✓			✓		✓	✓	
e. 本文のテーマに関して設定された内容で手紙文を書く	W	✓								
f. 本文のテーマに関して設定された内容で英文を創造する	W							✓		
g. 本文のテーマに関して設定された内容で、パンフレットやポスター等を作成する	W	✓		✓						
h. 本文のテーマに関して設定された内容について、口頭で説明したり紹介したりする		/	/	/	/	/	/	/	/	/
h-1 自分の知識や体験を話す	S	✓	✓	✓	✓	✓		✓	✓	
h-2 インターネットや書籍等で調べた内容を話す	(R+)S		✓	✓	✓				✓	
h-3 提示されているグラフや図からの情報を話す	S				✓			✓		
h-4 人への質問やインタビューから得た情報を話す	L+S					✓				
i. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を話す	S		✓			✓		✓	✓	
j. 本文のテーマに関して設定された話題で対話をする	S+L	✓	✓							
k. 本文のテーマに関して設定された内容について、知識や情報、意見を交換する	S+L									✓
l. 本文のテーマに関して設定された内容について説明したり紹介したりする		/	/	/	/	/	/	/	/	/
l-1 自分の知識や体験を述べる	W or S						✓	✓	✓	✓
l-2 インターネットや書籍等で調べた内容を述べる	W or S							✓	✓	
m. 本文のテーマに関して設定された内容について自分の考えや意見を述べる	W or S						✓	✓	✓	✓

※網掛けは、その教科書で頻度の高いタスクを表す

図2 各教科書における典型的形式の技能統合プロセス

級の教科書では、表現活動において本文中の知識や事実の説明・紹介に終始したのに対し、上級レベルでようやく自分の考えや意見の主張に高めるタスクが導入されていた。また活動の種類も限定的であった。ここには、リーディングからの技能統合をめざして、話すこと、書くことにつなげるためにはある程度の、基礎的な言語能力を必要とするという前提があるように思われる。機械的な練習問題を越えて、完全に自由な自己表現につなげるにはかなりの習熟度レベルに達することが必要であるが、そこに至るための初歩的な練習、単語や表現レベルでの足場掛けをどのように準備するか、次の教科書改訂に向けて、教科書作成者の工夫と努力が求められるところであろう。

参考文献

伊東治己（編）（2008）『アウトプット重視の英語授業』教育出版。
岡秀夫・赤池秀代・酒井志延（2004）『英語教員研修プログラム対応「英語授業力」強化マニュアル』大修館書店。
深澤清治（2008）「読解を促進する発問作りの重

要性：高等学校英語リーディング教科書中心の設問分析を通して」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第57号，169-176.

深澤清治（2010）「教科書タスク教科書タスク高等学校英語リーディング教科書分析：推論および自己表現を促す発問を中心に」『広島大学大学院教育学研究科紀要』，第59号，195-202.
三浦省五・深澤清治（編）（2009）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂出版。
八木慶太郎・伊藤秀子・波多野和彦（2001）「タスク（設問）に着目した英語読解の指導法—教科書分析における課題と考察—」『メディア教育研究』第7号，103-116.
Kobayakawa, M. (2011). Analyzing Writing Tasks in Japanese High School English Textbooks: English I, II, and Writing. *JALT Journal*, 33, 1, 27-48.
Nuttall, C. (2005). *Teaching Reading Skills in a Foreign Language*. Oxford, UK: Macmillan Education.